

- (4月)
- 3日 民主党第4区 総会
 - 8日 中丸小学校 入学式
 - 9日 東海南中学校 入学式
 - 10日 須和間幼稚園 入園式
 - 13日 須和間自治会 総会
 - 14日 米国原子力学会ランドマーク賞
受賞記念講演会
 - 16日 青少年育成東海村民会議 定期総会
 - 17日 看護師不足、後期高齢者医療・学習会
 - 29日 日立地区メーテー
- (5月)
- 9日 原子力事業計画説明会
 - 12日 行政視察（長野県飯田市）
 - 13日 行政視察（東京都文京区）
 - 21日 連合茨城・街頭宣伝行動（東海駅）
 - 23日 四川大地震・街頭募金活動（日立駅）
 - 25日 民主党県連・自治体議員研修会
 - 27日 日立AP労組多賀支部OB会・総会
- (6月)
- 1日 東海村・春の一斉クリーン作戦
 - 2日 ◆6月議会 開会
 - 4日 連合茨城・政策制度討論集会
 - 12日 ◆6月議会 一般質問
 - 16日 ◆6月議会 閉会
 - 17日 日立労組国分支部OB会・総会
 - 18日 行政視察（東海第二発電所）
 - 20日 部原地区・地権者意見交換会
 - 28日 地域代表者会議

編集後記

中国・四川省を襲った大地震。対岸の火事と思いきや、わずか1ヶ月後に「岩手・宮城内陸地震」が発生した。死者の数は12名に上り、行方不明10名の捜索活動も難航している。

そんな中、県内自治体の公立小中学校の耐震化率が報じられ、本村は全国平均を下回る40.5%であった。現行の耐震基準に満たない建物は、順次建て替えや補強を計画しているが、一刻も早い対応が必要である。

10月に本村で開催される介護保険推進全国サミットのシンボルとして役場玄関に展示されている「転ばぬ先の杖」。

この先人の教えを、行政全般の心得として重く受け止めた。

● 四川大地震・街頭募金活動

民主党の議員団として、日立駅前にてミャンマーのサイクロン、および中国・四川大地震の被災者を支援する募金活動を実施しました。

帰宅の途につく会社員や学生の皆さんにご協力を頂き、3日間で207,060円もの義援金を集めることができました。ご協力頂いた皆さんに感謝申し上げます。

募金活動を通じて、災害に対する関心の高さと人の温もりを、改めて感じることができました。



● 東海村・春の一斉クリーン作戦



電機連合の組合員さんのご協力のもと、恒例のクリーン作戦を実施しました。当日は、約30名のご参加を頂き、R6マルカワ食堂周辺のゴミを収集しました。

みんなで拾ったゴミの山を見ると、一見充実した活動に思えるのですが、心無い人の何気ない行動から、こんなに多くのゴミが捨てられている現実を考えると、虚しい思いです。

クリーン作戦をやらなくても、ゴミの無い「きれいな街づくり」を目指したいものです。



藤岡慎英さん
(緑ヶ丘在住)

VOICE

東海村に住んで37年、生まれ故郷で過ごした2倍以上の月日になる。二人の子供は東海村で生まれ育ち、れっきとした「東海っ子」である。

2年前に、戸塚に嫁いた娘に子供ができ、爺と呼ばれるようになった。娘が「ふるさと」として孫を連れて帰ってくるが、孫の届けの無い行動と、穢れの無い目を見ていると、東海村はこれで良いのかと不安が過ぎる。

この37年間、団地の周りに原子力関連施設や遊戯施設ができるとのことで、その都度反対したが、行政と事業者の厚い壁に押し切られてきた。さらに、新たな産廃処理施設が2ヶ所できるとのこと。

財政の豊かな村というが、公害の無い安心して暮らせる環境こそ、真の「豊かさ」ではないか？

我々の代弁者として、越智議員の若いパワーに期待する。

わかば通信

東海村議会議員 越智たつや

議会報告



第2号

H20年7月発行
発行人：越智たつや後援会
日立市幸町2-13-6
(日立製作所労働組合 日立支部内)
TEL 0294(22)3004
FAX 0294(23)2629

日頃のご支援に感謝申し上げます。

「越智たつや」は、常任委員会や特別委員会などの委員会活動、さらには支援者の皆さんから寄せられる相談対応など、議員としての活動が本格化し、村内を駆け回っております。

さて、6月から9月までの期間、日本政府からの地球温暖化防止の国民運動「チーム・マイナス6%」の協力要請により、ノーネクタイ、ノージャケットでの軽装『クールビズ』が社会的に流行しております。

「越智たつや」も、この季節は『クールビズ』にて議員活動を実施しますので、皆さまのご理解をお願いします。



▲『クールビズ』の意思を示すネクタイピン

NEWS

～ 東海村の身近なニュースをお伝えします ～

新規事業
ファーマーズマーケット

東海村の農業振興策と成り得るか？

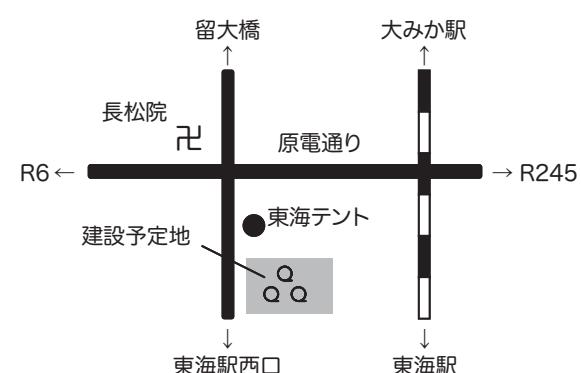
新緑の季節となり、5月～6月にかけて村内の農作地域では、田植えや干しイモの苗植え作業がピークを迎ました。農業従事者は、安心・安全な「食」の提供を目指すと共に、直面する担い手不足への対応に苦慮しています。

東海村では、「福祉・教育・環境・農業」を行政の4本柱に位置付け、農業振興も重点的に取り組んでいます。その一環として、今年度、東海村の地産地消の拠点として、仮称「東海村農業情報発信館」を建設します。H21年5月の開業に向け、建物のレイアウトなど序々に形が見えつつありますが、直売所に並べる地元産農作物の調達ほか、運用面では課題が山積しているように感じます。

自給率向上や地産地消など「食」に対する世論が高まるなか、本村においても、真の農業振興策を見つめ直す重要な時期に来ているのではないかでしょうか。



▲干しイモの苗植え（須和間地区）



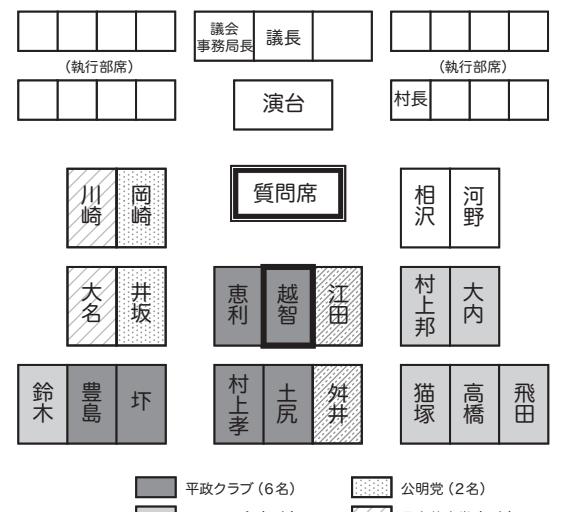
新・白方小学校建築工事の業者が決定

6月定例議会が、6月2日～16日までの会期で開催されました。今議会では、報告6件(寄附の受入れほか)、承認6件(東海村税条例の一部を改正する条例ほか)、議案9件(白方小学校建築工事の請負契約の締結ほか)、諮問1件(人権擁護委員の候補者の推薦)が議案として上程され、原案どおり全て可決されました。

なお、白方小学校建築工事は、右記のとおり入札業者5社のうち3社が辞退するなか、「五洋・コスモ・清水特定建設工事共同企業体」が落札しました。昨今の原油や鋼材の高騰の影響により、他自治体では入札が不成立するケースも出ており、公共事業の先行きに不安の声が上っています。

議会改革
「一問一答」

議場に新たな「質問席」を設置



前回の3月定例議会より、議会改革の一環として「一問一答」方式が運用開始となりました。これにともない、6月定例議会より議場には新たな「質問席」が設置されました。登壇する議員は、村長ほか執行部に向かって質問を行います。

「一問一答」方式は、従来からの一括的な質疑スタイルに比べて、議員からの質問に対する行政側の回答を一つに絞って議論するため、論点が明確になりやすい利点があります。今議会では、一般質問に登壇した14人の議員のうち、「越智たつや」含めて5人の議員が「一問一答」方式にて一般質問を行いました。

傍聴に訪れた村民からは、「一問一答の方が分かりやすかった」など、好評の声が多数寄せられました。

越智議員の
一般質問

東海村の直近の課題を問う



6月10日、皆さまから寄せられたご意見を元に、村の直近の課題として捉えている案件を中心に、一般質問を行いました。

とくに、東海パーキングエリア(PA)スマートインターチェンジ(IC)設置事業については、住居移転や近隣の農家にご協力を頂くなど、村として9億円を投入する大きな事業であり、ひとりでも多くの方にご利用頂けるICにしたい、とのことです。

質問内容と執行部答弁の抜粋を次頁に示します。



6月定例議会

「産廃処理施設の参入防止策について」

建築物の用途や形態を制限することができる「地区計画」という手法が参入防止策に一定の効果があると伺っている。今後の進め方は?

また、本年度に採択する予定の「環境都市宣言」と、産廃処理施設の参入策との関連は?

6月中旬に地権者を対象にした意見交換会の開催を予定しており、土地利用のあり方について地権者の意向をまず確認したいと思っている。その後、4自治会を含む周辺住民との意見交換会を開催し、その結果に基づいて、国土利用、土地利用計画、都市計画、および環境面の観点など具体策を検討していきたい。

また、さまざまな条例や規則の制定、住民の環境意識の改善などと共に「環境都市宣言」を行うことで、東海村は環境を大切にする村であり、住民の監視の目も厳しい、ということを内外に示すことができる。これにより、環境負荷の発生源となる企業等に対して、東海村へ参入しにくい印象を与え、立地抑止の効果になると考えている。

「東海PAのスマートICの運用開始に向けた課題について」

社会実験開始が、年明け以降にズレ込むと伺っているが、概略日程はどのような見通しか?

また、東海PAは三郷ICから101.7kmの距離に位置しており、ETC割引の対象外となるため、都心部への利用者が見込めない。この区間は、割引対象区間の特例として扱うよう、関係機関へはたらきかけてはどうか?

社会実験開始は、本年9月を目標としていたが、自動料金収受システムの機器の発注・製造に要する工程、交差点改良等の工程、住宅移転などを考慮し、概ね年内には整備完了できる予定で進めている。よって、社会実験開始は平成20年度末頃になると想定している。

また、東海PAからの利用を積極的に進めるためにも、ETC割引区間の改善を要望していかなければならないと考えており、国土交通省、東日本高速道路株式会社(NEXCO)に対して、料金体系の見直しを要望していく。



会議録詳細は、東海村議会ホームページでご覧下さい。

<http://www.vill.tokai.ibaraki.jp/gikai/>



「小松原・笠内線の延伸の早期実現について」

東海南中前からフローレスタ須和間方面への本線の全線開通にともない、団地を通過する車両の数が日増しに増えており、幹線道路化している。

これまで以上に、延伸の早期実現を望む声が多くなったが、今後の計画は?

当初の計画では、照沼笠松線に接続する計画だったが、フローレスタ須和間の開発や都市計画マスター プラン作成時に、ひたちなか市側の県道瓜連馬渡線までの延伸の計画を立ててきた。よって、ひたちなか市との行政連絡会議が開催されるたびに、本村との接続を要望してきた。

今年に入り、ひたちなか市の北部の拠点となる佐和駅周辺地区的広域消防化の検討結果から、小松原・笠内線の整備が計画幅員16m、事業区間350mで概ね5カ年で整備する計画の概要が示され、東海村の要望をひたちなか市で取り入れてくれた。

なお、フローレスタ須和間や南台団地の交通量については、ひたちなか市への接続が完了するまでの間は、関係機関を通じて安全対策には十分配慮し解消していく。



※常陸那珂港～R6笠松とを結ぶ都市計画道路

「学童クラブの待機児童および施設内の安全対策について」

著しく増え続ける受け入れ児童数への対応が先送りされている感が否めない。第二学童クラブの設置も視野に入れて、本格的な議論を開始する時期に来ているのではないか?

また、窓ガラスの飛散防止フィルムなど安全対策について、ポテンシャルの高い部分だけでも実施すべきでは?

村内の3つの学童が定員100名を越えているが、あくまでも登録者数であり毎日オーバーしているわけではない。

しかし、100名を越える状況が状態化した場合には、第二学童の設置を検討していかなければならないと考えている。当面は、学校周辺の公共施設や放課後の体育館の利用など、児童の居場所を増やすことを学校や関係部署と協議していく。

また、安全対策については、強化ガラスを配慮した設計となっており、問題無いと考えている。